

令和5年度 第2回図書館協議会

- 1 日時 令和6年3月1日（金）13：30～
- 2 場所 中央図書館2階研修室
- 3 出席者（委員） 今村委員、福沢委員、玉置委員、矢澤委員、雄長委員
遠山委員、林委員、会津委員、千種委員
（事務局） 瀧本中央図書館長、矢澤中央図書館長補佐兼上郷図書館長、
関口情報サービス係長、宮下地域読書推進係長兼鼎図書館長、木下管理係長、
（司会） 木下管理係長
- 4 中央図書館長挨拶
- 5 玉置会長挨拶
- 6 会議事項
（1）令和5年度事業報告および令和6年度の取組について
（2）図書館アンケートについて
（3）その他
- 7 連絡・報告事項

6 会議内容 （司会） 玉置会長

（1）令和5年度事業報告および令和6年度事業計画

- 会 長 最初に会議事項1、令和5年度の事業報告および令和6年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 資料No.1「第4次飯田市立図書館サービス計画に基づいた令和5年度の事業報告及び令和6年度の取組」により説明。

I. 図書・資料・情報提供を充実させます

令和5年度の取組、成果および課題

- ・図書については、利用者のリクエストを最優先し、利用状況をふまえたり、分野のバランスを取ったりしながら選書を行った。ChatGPT、金融・投資関係、牧野富太郎が今年度の選書の特徴的なものであり、社会的にも話題でよく利用された。
- ・4月から1月までの貸出利用者数（のべ人数）は、昨年度と比べほぼ同数である。
- ・10月に南信州図書館ネットワークで使用しているコンピュータシステムを新システムに更新した。あわせて、スマートフォン画面読み取り対応可能なバーコードリーダーを全ての貸出窓口に設置し、貸出カードがなくてもスマートフォンに利用者番号を表示させて貸出できることをPRした。スマートフォンでの利用者番号表示で本を借りる方は増加傾向にある。

- ・ビジネス支援では、飯田商工会議所の「いいだ創業塾」や共生・協働推進課の「起業どうしようかなクラブ」など起業を考えている方たちの集まりへ出かけていき、図書やビジネス支援サービスの紹介を行った。
- ・駅前図書館に設置した予約本取り置きロッカーは月平均 100 名程度の利用がある。
- ・障がい者サービスでは、録音図書製作ボランティア養成講座を行ったほか、録音図書利用者と製作ボランティアとの交流会を開催したことにより利用者の方からのリクエストが増加した。全市的に録音図書を必要とする方へ広く PR する方策が必要である。

令和 6 年度の主な取組

- ・多様なニーズに応えるため、市内各図書館で役割分担してニーズに対応した図書を提供する。
- ・情報探索支援やレファレンス（調査相談）による速やかな情報提供と、レファレンス事例紹介や情報探索体験講座開催により、情報を調べやすい環境づくりに取り組む。
- ・障がい者サービスを必要とする人へ届く効果的な利用 P R を福祉課と相談しながら進める。

Ⅱ. 子どもの読書活動を推進します

令和 5 年度の取組、成果および課題

- ・子供の読書活動推進は、年齢、発達段階に応じて事業を実施。

【乳幼児（就学前）】

- ・乳幼児期の読書推進は、家庭に本を届けて親子で読書を楽しむことに重点を置いて取り組んでいる。
- ・7 か月児への「はじめまして絵本」プレゼントと読みきかせ、2 歳児相談で絵本の読み聞かせを体験してもらうおはなし会を行った。
- ・市内の保育所等を通じて、図書館職員のおはなし会とあわせて 4 歳児（年中児）709 名への「おともだち絵本」プレゼントを実施し、幼児期に家庭で絵本を楽しむ時間を持つことを支援した。
- ・絵本の楽しさを体験する機会を増やすため、子育て支援課や保育所と連携して、保育所等を通じて各家庭へ定期的に本が届く仕組み作りに取り組んだ。

【小学生・中学生】

- ・上郷図書館職員 1 名を小中学校図書館支援担当と位置づけ、この職員を中心に学校図書館への支援を実施。
- ・学校図書館のコンピュータシステム導入のため、年間を通じて支援を行った。今年度、市内全中学校の学校図書館にコンピュータシステムが導入され、令和 6、7 年度で小学校の学校図書館に導入予定である。
- ・各学校との連携強化、実態把握と課題の共有のため、学校図書館の訪問を始めた。今年度はシステム導入もあったため、全中学校を訪問し、来年度は小学校への訪問を予定している。学校図書館と公共図書館が連携しながら小学生・中学生への読書支援を行う体制づくりを進める。
- ・学校図書館と協力して作成した学年に応じて読んでほしい図書リスト「よむリス」は、令和 5 年度に小学 6 年生対象のリストを作成したことで、全学年の図書リストができた。学校を通じて全学年の児童へ配布し、リストの本を手にとってもらうために、小学校と図書館や図書分館が連携して「よむリ

ス」ビンゴを行ったり、スタンプを押したりするなどの活用が行われている。

【高校生】

- ・高校生になると読書量が減る、図書館の利用が減る傾向がある。その高校生への働きかけは、駅前図書館を中心に実施。
- ・駅前図書館で2ヶ月に1度、定期的に本に親しむイベントを実施。1回ごとの参加人数は少なかったが、高校生から「多角的な意見を聞けて読書会はよいものだと感じた」と感想をもらったり、「このセリフが熱い」を学校図書館でもやってみたという図書委員がいたりした。参加者を増やすために、情報をどう届けるかが課題である。

【子供の読書活動に関わる人への支援】

- ・読み聞かせボランティア、学校の先生、保育士の方々への支援を実施。
- ・「子どもの本研究会」と共催で一緒に子供の読書について考える講座を行った。児童文学研究者清水眞砂子さんの座談会の録画を視聴し、子供の読書の現状や自分たちにできることを話し合った。それぞれの立場で主体的に意見を交わす機会になった。

令和6年度の主な取組

【乳幼児（就学前）】 【小学生・中学生】 【高校生】 【子供の読書活動に関わる人への支援】

- ・これまでの活動や事業を継続して、発達段階に応じた読書推進の支援を行う。
- ・図書館アンケートで、図書館は子供連れで利用がしづらいという意見があったことを踏まえ、子供連れでも使いやすいと思ってもらえるような取組を行う。

Ⅲ. 身近に使える図書館の充実を図ります

令和5年度の取組、成果および課題

- ・全市で公共図書館サービスを受けられるように、小学校区ごとに16分館1分室を設置している。
- ・分館では、地区内の保育所・小学校・公民館等の関係機関と連携し、おたのしみ会や読書推進事業を実施した。
- ・地区内の各種施設への団体貸出を実施、高齢者施設向けの図書を購入したり、小学校の調べ学習に対応した図書を購入したりして、地域の細かいニーズに応えるように努めた。
- ・おたのしみ会等の集会行事は、計画したものがほぼ実施できたが、コロナ禍で減少していた貸出利用者数の回復には至っていない点は課題である。

令和6年度の主な取組

- ・引き続き、地区内の保育所・小学校・公民館等の関係機関と連携し、読書推進事業を行う。特に保育所での「おともだち絵本」プレゼントへの分館職員の参加や小学校の学級招待等の拡充に力を入れていきたい。
- ・地区の実情にあった図書購入と図書の整理を行い、来館したくなる図書館づくり、環境づくりに各分館で取り組む。

- ・各地区で分館と小学校の学校司書との連絡を密にし、子供の読書状況について情報共有を行う。令和6年度は小学校に順次コンピュータシステムが導入される予定であり、その際、小学校の学校図書館が休館となる。この休館中に小学生へ継続して読書推進の支援を行うために、分館と小学校が連携を深めて取り組んでいきたい。

IV. 学びあいにより人と人とがつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

令和5年度の取組、成果および課題

- ・読書会交流会の取り組みとして、12月に『人間の土地』読書会を行った。
- ・県図書館と県公民館が共催で、大人と中学生が郷土資料を使って一緒に地域を調べる「県ナゾとき探偵団」を行った。「県にはどうして坂が多いのか」「県にはどうしてお店が多いのか」といった身近なナゾについて、中学生が資料を調べ、現地調査に行き、ナゾ解きに取り組んだ。
- ・吉澤健氏を講師に文学講座「古典に親しむ」を10月に開催した。
- ・関西外国語大学塚田泰彦教授を講師として「読む技術」をテーマに読書推進講座を行った。80名が参加し、深く読むための方策などの講演を聞き、読書についての学びが広がった。
- ・市民の方々が主体的に参加できる内容の企画実施や、運営を担える場や人材をつくっていくことが課題である。

令和6年度の主な取組

気軽に参加でき、読書について情報交換したり交流したりすることができる場づくりを検討し取組を行う。

- ・読書会は実行委員会形式ではなく、市民有志と協働して行う予定。
- ・「源氏物語」をテーマに文学講座を開催する。
- ・県図書館と県公民館が共催で「県ナゾとき探偵団」に引き続き取組む。
- ・令和7年に中央図書館開館110周年を迎えるにあたって、市民の方に参加を呼びかけ企画を検討する。

V. 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します

令和5年度の取組、成果および課題

- ・伊那谷地名講座の一環として、自分で地名を調べる地名研究ワークショップを開催した。
- ・駅前図書館で「ウィキペディアタウン」を開催し、参加者が郷土資料を使い自分で調べて発信する体験ができた。
- ・飯田市をPRするブックカバーをデザインされたイラスト書道家の和全氏のトーク&サイン会、田中芳男を取り上げた小説の『博覧男爵』を読んで田中芳男を語ろう」の開催により、郷土情報の発信や語り合う場をつくることができた。
- ・地域資源の図書リスト15タイトルをシステム更新に合わせて新たに作成し、ホームページに掲載したほか、生涯学習・スポーツ課、公民館、歴史研究所と連携し、図書リスト提供や本の展示を行い、郷土情報を発信した。
- ・南信州新聞や郷土カセットテープ音源のデジタル化を行い、保存・提供しやすいようにした。

- ・今後、図書館資料のデジタル化をどのように進めていくかが課題である。

令和6年度の主な取組

- ・引き続き、伊那谷地名研究会と共に参加者が主体的に学べる講座や、ウィキペディアタウンなど、郷土資料を活用する講座を行う。
- ・貴重資料の「飯田文書」をデジタル化し、保存・提供しやすくするほか、郷土の新聞・図書・音声資料のデジタル化を進める計画をたてる。

VI. 安全で安心して使える施設を整えます

令和5年度の取組、成果および課題

修繕・改修工事を行い、市民が安全・安心に利用できる施設環境の維持に努めた。

- ・実施した主な工事は、中央図書館空調設備更新工事、中央図書館書架照明 LED 化工事、上郷図書館トイレ洋式化工事、中央図書館おたのしみコーナー窓改修工事、中央図書館イヌ桜支柱取替工事である。

令和6年度の主な取組

安全・安心に利用でき、環境に配慮した施設環境を整えるために、点検や改修工事を実施する。

- ・実施予定の主な工事は、中央図書館空調設備更新工事、中央図書館屋根・西側一部外壁改修工事、中央図書館照明 LED 化工事などである。
- ・保守点検として、次期教育委員会施設等総管理計画策定のための施設劣化状況調査等を実施予定。

VII. その他

令和5年度の取組

- ・第5次図書館サービス計画の策定に向けて、市民アンケートを実施し、読書や図書館に関する市民の方の意見をお聞きした。
- ・アンケート回答 2,267 人（うち図書館利用者 1,339 人、未利用者 924 人、無効 4 人）。

令和6年度の主な取組

- ・令和7年4月施行の第5次図書館サービス計画を策定する。

更新したホームページの紹介

- ・9月までのトップページは縦に3つに分かれて情報が掲載されていたが、更新後は、スマートフォンに対応して縦1つでスクロールしていく仕様に変更された。また、以前は「お知らせ・イベント」と「よむとす」が1つになっていたが、本の紹介である「よむとす」を利用者の方に読んでもらいやすくするために独立させた。
- ・トップページ右上にあるログインボタンから、カード番号とパスワードを入力してログインすると利用者番号のバーコードが表示されるため、スマートフォンに表示させることで本を借りることができる。

- ・新聞は地元のことを調べるためにとても役立つ重要な資料であり、飯田市立図書館でも明治期以降に発行された地元新聞を多く所蔵している。しかし、新聞はシステムに搭載されていないため、利用者の方が所蔵状況を調べるのが難しかったが、今回の更新で「本・資料を探す」の中にある「郷土の新聞を調べる」という項目を作り、デジタル化してある新聞の一覧を掲載した。また、「郷土新聞の変遷」の図も合わせて掲載した。
 - ・飯田市立図書館では、システムで管理できない貴重資料も数多く所蔵しており、これまでも「貴重資料の紹介」で掲載していた。今回の更新で、伊那自由大学千代支部の設立に関わった龍江の楯操氏から寄贈された自由大学関係の資料、長野県社会教育主事であった池田憲介（本名憲寿）氏が所蔵していた公民館・社会教育関係の資料、木下誠氏から寄贈された県内で発行された農業雑誌などの農業関係の資料の一覧を追加で掲載している。
 - ・貴重資料は通常のシステムで検索しても見つからないが、「いいだの情報・いいだの資料」の「飯田市立図書館貴重資料検索」から調べることができる。また、「さーちしまいか」では、南信州図書館ネットワーク、飯田市立図書館貴重資料、国会図書館デジタルコレクションを対象に一括して資料を検索することができる。
 - ・今までも子供の読書推進に関わる大人に向けたページはあったが、今回の更新で子供のページを新設した。子供のページからは子供たちが自分で資料を検索して調べることができ、おすすめの本もわかりやすく紹介している。
- ・「こども」の表記について、飯田市教育委員会では、計画など議会で報告している内容のものや制度の名称は「子ども」のままの表記であり、それ以外については文部科学省の方針に基づき「子供」と表記することとした。

[質疑]

- 会 長 非常にたくさんのご説明いただきましたが、今の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。
- 委員A 学校図書館へのコンピュータシステムの導入について、今年度全中学校に導入されたということであり、これから小学校に導入するということであったが、小学校の学校図書館にはどこもコンピュータシステムは入っていないのか。
- 事務局 今まで飯田市の小・中学校の学校図書館ではどの学校にもコンピュータシステムは導入されておらず、手作業での貸出、返却であった。それを3年かけて全校にシステムを導入する計画であり、今年度は市内全中学校に導入し、来年度から2年間の計画で、小学校の学校図書館に導入する予定である。これにより、本の検索や本の予約ができるようになり、小学生、中学生が読みたい本や調べたい本にたどり着きやすくなると思う。
- 会 長 自分の学校図書館の所蔵情報だけが調べられるのか。他の学校の所蔵情報も調べられるようになるのか。
- 事務局 子供たちが学校の中で使う想定であるため、自分の学校図書館の所蔵情報を調べられるようになる。

- 委員B 2の「図書館アンケートについて」で話があると思うが、子供連れでの図書館利用がしづらいという意見があり、こうした意見に対応していきたいと説明があったが、詳しく教えてほしい。
- 事務局 飯田市立図書館アンケートは、図書館以外にも様々な場所で市民の方々にアンケートにご協力いただいている。その中で、図書館を利用されない方の図書館を利用しない理由を答えていただく項目において、選択肢の中の答えではなく、「その他」として書かれていた中で、「子供が騒いでしまうので図書館には行けない」「静かな雰囲気のある場所には、子供を連れていけない」という意見が何件もあった。図書館は静かな雰囲気という印象が強いので、子供を連れていくことに抵抗感がある方が多いということで、近年、他の図書館でもこの課題に取り組んでいる現状がある。全国的な取り組みの1つが、「図書館子供タイム」のように何曜日の何時から何時は「子供連れの方を歓迎します」ということを打ち出しているものである。「この時間は子供が少し声を上げてもいいですよ」「他の来館者の方も子供を見守りましょう」ということを打ち出しているもので、飯田市の図書館としても、この取り組みを導入することで来やすい雰囲気づくりができるのではと考えているところである。実施に向けては子供連れ以外の来館者の方々への配慮などの検討も必要であり、これまでの乳幼児学級やつどいの広場などでの活動も地道に行いながら、来館しやすい雰囲気づくりを検討しているところである。
- 委員C 「子供連れの方が使いにくい」というご意見があったということ、詳しく聞きたいと思っていたところである。1小学校区に1つの分館があるという話であったが、ある児童書の勉強会の中で、分館の係員の方々が地区の保育所で「この本、いいですよ」と本を紹介する機会がどのくらいあるのかという話が出た。その勉強会の中に分館の係員をされている方がいたので、その方が働く分館での状況をお聞きすることができた。勉強会などに参加されている係員の方からの本の紹介は安心できるという声もあったため、保育所に本を紹介するために図書館が勉強会などを実施し、分館から保育所に働きかけるようにしたらどうか。
- 事務局 分館と地区内の保育所の連携は地区ごとにそれぞれの分館で行われている。また、分館の係員対象の図書館業務の研修会は、全分館の係員を対象に年1回行っている。パートタイム職員である分館係員は16分館で約100人いるため、研修会に全員が参加しているというわけではないのが実情であるが、分館単位で読み聞かせの研修を行っている分館もあり、今年度も龍江分館で行った。また、読み聞かせボランティアの研修会にも、分館係員にも参加の呼びかけを行っており、研修の機会を確保しているところである。分館係員はパートタイム職員であるため、どこまでの質を全職員に求めていくのかは難しい部分がある。
- 委員D 東野地区で発行しているまちづくり広報の編集に携わっているが、次号で東野分館の紹介をするために特集を組むことになった。このことで劇的に利用が増えるということ

ではないと思うが、基本的な開館時間や分館の雰囲気などを伝えようと話しており、分館の係員の方も協力的である。また、分館を知ってもらう機会がないと来館につながらないため、令和6年度からは、年4回発行するまちづくり広報誌で分館に入った新刊本を紹介しようと検討している。地区の方たちにとっても分館の情報はメリットがあるものであるため、地区の公民館やまちづくり委員会などと連携して、地区の方々に分館の情報を届けられるとよいと思う。

私も子供が小さい頃に東野分館を利用していたが、最近是利用していなかった。今回、分館の取材に伺った際に係員の方が覚えていてくれて、嬉しい出会いもあった。地区の分館ならではの出会いだと感じたところである。

○事務局 分館の特徴の一つとして、係員が地域の方であり、距離の近いサービスが行われているということがある。子供連れのお母さん方で中央図書館に行くことは気が引けるという方も、開館時間は限られているが、ぜひ分館を利用していただきたい。

○委員E ムトスぷらざに来る高校生は多いが、本を借りる高校生は少ないということであった。図書館で2か月に1度本に親しむイベントを開催して、イベントへの参加人数は少ないが、参加した方たちからは高評価であるということであったので、もっと宣伝をして、参加を呼びかけるような形で高校生の利用を増やしていったらいいのではないか。2か月に1度のイベントは、どういうことを行ったのか。

○事務局 5月は駅前図書館の1区画の本棚を自分の本棚として、好きな本を並べてPOPを書いたり飾ったりする本棚づくりを行い、3人の高校生が参加した。「このセリフが熱い」は7月に行った企画で、自分が読んだ本の中で惹かれた言葉を紹介し合う内容であった。ここには高校生の参加はなく、大人の参加だけであったが、ポスターを見た高校生が「自分もこの企画をやりたい」と言ってくれたとのことである。ムトスぷらざ自体は、高校生が集まって話をする良い場になっているため、少しでも高校生に影響を与えることができると良いと考える。9月には「積ん読書会」として、いつか読もうと思って積んだままになっている本をみんなで共有する読書会を実施。読書会は初めてという高校生2人と大学生1人の参加があり、大人の方の真剣な本の紹介を聞いたり、多角的に出てくる意見を聞いたりして、読書会の良さを実感してくれた。「ウィキペディアタウン」は高校生の参加はなかったが、ウィキペディアにあげた「半生菓子」の記事や使用した本を駅前図書館に展示したため、見てくれた高校生もいると思われる。来年度も引き続き、こうしたイベントを行っていきたい。

○事務局 もう少しPRをという話もいただいた。高校生・中学生にイベントに参加してもらうように宣伝していくにはどうしたらいいのかと、図書館側も課題に感じている現状がある。イベント・行事の情報をどこから得ているのかというアンケート結果をみると、どの年代もインターネットやSNSが多いが、中学生・高校生は家族・知人から情報を得ている割合が高かった。そのため、口コミや親世代への広報も効果があるのではと検討中である。

○事務局 駅前図書館で高校の図書委員が紹介した本を展示したが、職員が紹介する本よりも利用されていることが統計からもわかっている。

- 委員 B 「ウィキペディアタウン」の企画は、高校生が喜んで参加するのではないかな。
- 事務局 開催日時がテスト前と重なったことも、高校生の参加がなかった要因であった。
- 委員 B 駅前図書館に利用者、特に高校生が自由に使えるパソコンを置いたらどうか。直接本を借りることにつながらなくても、「図書館に行けばパソコンで情報が調べられる」ということになれば、「ウィキペディアタウン」への参加につながるのではないかな。
- 事務局 駅前図書館はムトスぷらざの3階にあるが、市の他部署がある2階には、市民が使えるパソコンが設置してある。
- 事務局 「ウィキペディアタウン」は根拠になる資料で調べて、それを発信するというもの。高校生は「発信する」ということに興味を持つかもしれない。そこに関心を持ってもらえるように広報していくことが、参加につながるように感じる。以前、中央図書館で「ウィキペディアタウン」を行ったときは、高校生2名が自主的に参加してくれた。高校生のやってみたいこととイベント内容が一致すると参加につながるため、広報について、よい方法があればぜひアイデアをいただきたい。
- 委員 B 高校生も忙しいため、ゆっくり読書をする時間を確保できないかもしれないが、本がある環境に親しんでほしい。
- 委員 A 予約本取り置きロッカーの利用が月に100人ほどあるということで、多くの方に利用されている。高校生は、そのロッカーは利用するということか。
- 事務局 予約本取り置きロッカーの利用は、高校生ではなく、大人の利用が多い現状である。駅前図書館の予約本取り置きロッカーであれば、年末年始以外の日の8時30分から22時まで本を受け取ることができるため、忙しい社会人などに利用されている。予約本取り置きロッカーの需要は社会人の方から高いということがわかった。
- 会 長 予約本取り置きロッカーは、「中央図書館の本を駅前図書館に取り置いておいてください」というものか。
- 事務局 中央図書館所蔵の本に限ってということではなく、読みたい本を駅前図書館で受け取ることができるというものである。
- 委員 E 小学6年生までの「よむリス」を作り、このリストを活用した読書推進を行っているということであるが、今後このリストの評価を考えているか。
- 事務局 これまで4年ほどかけて、1年生の「よむリス」から作成してきて、今年度6年生の「よむリス」まで作成できた。このリストは、公共図書館だけではなく学校図書館の司書と協力しながら作ってきた経過もあり、学校図書館と公共図書館で連携してこのリストの活用に取り組んでいる段階である。例えば「よむリスビンゴ」として、リストにある本を学校図書館、分館を含む公共図書館、どこで借りてもスタンプをもらえるという取り組みを行っている。このリストは小学生に本を手にとってもらうための入り口であるため、この入り口から読書を習慣づけていくようなものにつなげていきたいと考えている。

- 会 長 6年生の「よむリス」は6年生がもらうのか。
- 事務局 6年生がもらうリストであり、飯田市内の全6年生に配布している。今、委員の皆さんにお配りしてある6年生の「よむリス」で全学年分が揃ったため、飯田市の全小学生が自分の学年の「よむリス」をもらうということになる。図書館や分館にも置いてあり、どなたでも手に取っていただけるようになっている。
- 委員C 私も読み聞かせボランティアの活動で、「よむリス」を活用している。読み聞かせボランティアを行っている中で、高学年への読み聞かせは、朝読書の短い時間では難しいものがある。この「よむリス」があることで読んだ本と関連付けて紹介できるため、ありがたい。
- 事務局 そのように活用していただけると、大変ありがたい。
- 会 長 この「よむリス」が配られると、学校図書館でリストの本がよく借りられるのか。
- 事務局 全小学校、分館でリストの本は揃えており、子供たちに手に取ってもらいやすいように並べている。学校図書館司書の先生方が紹介して、子供たちに手渡していくとより利用されると思われる。
- 事務局 令和4年度に飯田市で行われた長野県図書館大会で、ある小学校の学校図書館司書の先生が、この「よむリス」の本を読んだか、読んでみてどうだったか、一番面白い本はどれかなどを子供たちにアンケートをとった結果を発表してくれた。その結果をお聞きすると、「面白い本がなかった」といった声もあり、リストを配ればいいということではなく、いかにこのリストの本を手にとってもらうかということで、子供たちと本を結びつけていく司書の先生の役割も大きいのではないかと。また、公共図書館としても、「よむリス」の本を読んでおもしろいと思ってもらえるような取り組みを連携して進めていくことが大事である。そのため、今後「よむリス」はどうであったかと振り返ってみることは必要になってくると思われる。
- 会 長 このリストには面白い本を選ばないといけない。
- 事務局 このリストの選書は学校図書館司書の先生方と一緒にいった。意見が分かれることもありながら、本になかなか親しめない子供たちにも手に取ってもらえる本も交えて、話し合っ

って作成したものである。

(2)「図書館アンケート」について

○会 長 続きまして、会議事項2、図書館アンケートについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料No.2「令和5年度 飯田市立図書館アンケート調査結果報告書」により説明。

I 調査の概要

- ・令和6年度に策定する「第5次飯田市立図書館サービス計画」（令和7年4月1日施行予定）の取組内容の参考とするため、市民の方々の図書館への意見・要望や読書に対する意識を調査したものである。
- ・図書館の来館者の意見だけでなく、非来館者の意見も幅広くお聞きするため、市内事業所や地区の街づくり委員会の方々などにもアンケートにご協力いただいた。
- ・有効回答者数は2,263人、そのうち図書館利用者が1,339人、未利用者が924人であった。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の構成

- ・保育所、小・中学生の保護者の方に協力していただいたこともあり、回答者に30代、40代の女性の割合が多く、結果に影響している部分がある。
- ・今回のアンケートでは、高校生330人から回答を得られた。

2 読書率

- ・10代の本を読む率の少なさが目立つ。20代以上は図書館利用者からの回答が多いため、読書率が高い傾向になっているが、10代への読書推進、図書館利用の働きかけが今後の重点的な課題である。

【問2-1-2】（1年間に51冊以上読む方）

- 自分から本を読むようになった年代と、そのきっかけを教えてください。
- ・読書量の多い方が自発的に本を読むようになった年代は小学生期が最も多い。小学生までの読書推進やその支援が大事になるということがわかる。
- ・自由記入とした「きっかけ」では、学校図書館や先生、司書からの働きかけという答え、作品名を挙げて「おもしろい本に出会った」という答えが多かった。

2-2 電子書籍の利用

- ・電子書籍の利用は若い世代に多くなっている。電子図書館サービスの推進については、今後の課題と考えている。

3 読書と調べものの傾向について

- ・読む本については文学が多いが、中学生・高校生はスポーツ分野の割合が高く、30～40代の女性は教育・育児、料理・手芸の割合が高い。
- ・様々な分野の本がそれぞれの年代から求められており、この結果を選書に活かしていきたい。
- ・調べものの情報源としてインターネットと回答した割合が、前回のアンケートよりも高くなっている。

4-2 飯田市立図書館 利用者の状況

【4-2-2 図書館利用の目的・感想】

- ・利用の目的は「本・雑誌を借りる」、「調べものをする」、「本・雑誌・新聞を読む」が大半を占めている。
- ・図書館を利用しての感想では、多くの方が「日常生活や趣味の知識や情報を得ることができた」、「仕事の知識や情報を得た」、「おもしろい本に触れて、充実した時間を過ごせた」と答えており、30代、40代では「本を通じて親子・家族の絆が深まった」との回答も多かった。

【問4-2-3 図書館サービスの満足度】

- ・貸出冊数の増加や貸出期間の延長を求める声もあったが、貸出冊数・期間や蔵書資料については「満

足」「やや満足」と答えた方が多くなっている。一方、本の探しやすさやホームページの使い方では満足度が低くなっており、課題として捉えている。

- ・旅行のガイドブックや技術、産業などに関する資料で、情報が古いというご意見をいただいた。

4-3 飯田市立図書館 未利用者の状況

- ・図書館を利用しない理由は、前は「行く時間がない」が多かったが、今回は「図書館に行く目的（必要）がない」が多くなっている。「本は読まない」「調べ物はインターネットで行う」といった記述も見られ、どの年代にどのように働きかけていくのかといった図書館の今後の方向性を考えていく上で重要な意見だと捉えている。

5 今後重点をおいてほしいと希望する項目

- ・今後重点をおいてほしいと希望する項目では、「本や資料の充実」が多く、多分野にわたって広く情報を求めていることがわかった。

○会 長 今の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員B 「図書館に行く目的（必要）がない」という人は、自分の周りにもいる。

○事務局 中学生・高校生の回答で、「学校の図書館を使っている」の選択肢の割合も高いわけではなく、残念なところである。

○委員B 学校の図書館は、朝や放課後に小学生・中学生に利用されているのか。

○委員F 中学校の図書館は朝と放課後は開放しておらず、休み時間に開放している。

○委員G 小学校では学校図書館司書の先生の勤務時間を変更して、朝、20分休み、昼休みに開館している。読書旬間などで「読書ビンゴ」「貸出スタンプ」といった特典があると、利用が増える傾向がある。また、「ハリー・ポッター」などのシリーズものが好きな子供たちは図書館をよく利用している。

○委員D 図書館未利用者の図書館を利用しない理由で、「必要な本は購入している」と答えた方が239人いる。「本を読んでほしい」という最終的な目的で考えると、「必要な本は購入している」という答えは図書館の目的を補完しているようにも思える。そうすると、この必要で購入している本はどんな本なのか。技術系、例えば ChatGPT の使い方のような本であれば、図書館で2週間しか借りられないよりは、購入して手元に置いておく方が適している。どんな本を購入しているのかがわかると、今後の図書館サービスのヒントになるのではないかと。図書館は書架がある場所では、1冊の本から派生して隣に面白い本があったなどの偶然の出会いがあったり、知識に広がりができたりしていく場所であるため、参考にできると思う。

ある本で、「世の中が不安定になると、哲学が求められる」と書いてあるのを目にした。

今まではテクノロジーや技術といった How To ものの本が流行っていたが、最近は、哲学、意識、生き方の本が求められているように感じる。「図書館の情報は古い」と言われ、本屋さんのように最新の本ばかり置いてはいないが、すでに本屋さんでは入手できない本が借りられたり、人が物事を考えるために積み重ねてきたものについては図書館の資料は充実していたりする。このように考えていくと、図書館が今後果たしていく役割は大きいと思われる。

○事務局 コロナ禍の中では、生き方・哲学の本の利用が多かった。

○事務局 図書館ならではの強みの部分と、新しい情報を必要としている方への情報提供の二方向から考えていく必要がある。

○委員D 中学生、高校生が図書館を利用しない理由として、「遠い」「行く手段がない」がないと答えている割合が一定数あり、気の毒に思う。公共図書館が学校図書館と連携していくのか、無料の移動手段を考えていくのか、方法はともかくとして、中学生・高校生が一人でも図書館に来られるような環境になるとよい。

○事務局 子供が1人で来られるように小学校区に1つ分館を設置しているが、小さな分館では中学生、高校生が読みたい本が少なく利用されなくなってしまう。駅前図書館も高校生を主対象として運営しているが、この駅前図書館に来られない高校生もあり、学校図書館との連携が大事になってくる。

○委員D そのあたりが都市部の図書館との違いである。

○事務局 子供たちに公共図書館も利用してもらいたいが、公共図書館に来なくても本と触れあったり、知りたい情報を知ることができたりするために、身近な学校図書館の利用促進を学校図書館司書の先生たちと一緒に考えていきたい。特に小・中学校の学校図書館を利用してもらうためにどうしたらいいか、ということに重点を置いて検討してまいりたい。

○委員E 伊賀良分館は下校時間になると小学生がたくさん来ており、保護者のお迎えの時間まで分館で過ごしている。

「必要な本は購入している」と答えた方は、専門的な本や仕事に関する本ではないかと思う。図書館で借りても、この本は自分の手元に置いておきたいとなれば購入する場合もある。

○事務局 図書館には「専門書が少ない」という意見もあった。図書館としては購入できない方がいることも考慮して、幅広く市民の方のニーズを拾い上げていきたいと考える。

○委員E 病院は病院内に図書館を設置するという機能評価があり、そこでは新しい情報を揃えるようになっている。専門的な本を公共図書館に求めていくことは難しいのではないかと。

○事務局 利用者の方が求めている専門的な情報をお聞きして、専門機関につないでいくことも公共図書館の役割の1つである。市民の方がどんな情報を求めているのかを把握して、根拠がはっきりとした確かな情報を素早く提供できるようにしていく必要がある。

○委員E レファレンスにより情報提供を行っていく力を図書館として持つことは大事である。

- 委員 B 自分の子供のころは放課後、学校図書館に入り浸っていることが多かった。現在は、放課後に学校図書館を開放していないとお聞きしたが、小学生は放課後、本を読むことがないのか。
- 委員 H 今小学生は、下校時間以降には家に帰るか児童クラブなどの施設などへ行くようにして、学校に残ることができないようになっている。地区の分館に行くことはよいが、学校図書館を放課後開放するように求めても、難しい部分がある。
- 事務局 今の学校の現状の中で、一緒にできることを考えていくことが大事である。休み時間にどう本を手渡していくか、読書旬間では何に取り組むか、授業の中で図書館をどう活用していくかといった、今できることを学校図書館と連携して考えていきたい。
- 事務局 小学校が以前と違うところは、授業の中で図書館を利用する時間があることである。低学年では週 1～2 コマが確保されているのではないかな。
- 委員 G 学習指導要領の中でも読書の時間があり、〇〇小学校では週 1 時間確保されている。前半 20 分が司書による読みきかせ、後半が図書館で本を選んで読む時間であり、この時間以外に、朝、昼休み、20 分休みに学校図書館を開放している。放課後は会議等で職員が不在となるため、小学生は完全下校となっている。
- 委員 F 今後少子化により、学校の教室が空いてくることが想定される。そうすると、公民館と学校が一体化して、空き教室に公民館職員がいて放課後利用するというような考え方も出てくるのではないかな。放課後の子供の居場所として、今後、地域と学校が一体化していく構想が進んでいくのではないかなと思う。
- 委員 B 小学生・中学生の時期に、学校図書館で過ごす時間が大人になっても本に親しむことにつながると思う。
- 委員 C 朝、学校図書館で借りた本を授業中に読んでしまい、放課後返却して、また新しい本を借りて、というように過ごしていた。
- 委員 G 今の小学生が一番触れ合う本は国語の教科書である。子供たちに国語の教科書の中で覚えている作品を訊ねると、「大造じいさんとガン」、「やまなし」、「一つの花」と答える。今の国語の教科書では「調べたことを発表しよう」という単元が多いが、そうした単元のことにはあまり覚えていないのが現実である。普段の国語の授業をしっかりと行っていないと、読書や本の面白さに結びついていけないと思う。アンケートの中でも、「自分から本を読むようになったきっかけ」で、学校の先生から紹介されたとの答えもあり、椋鳩十も学校の先生から渡された本で自然の美しさに気づいて、「大造じいさんとガン」につながったと書いてあるものを読んだことがある。子供と本との出会いの中で教師の果たす役割は大きく、国語の教科書から広がりを持てるようにしていきたい。
- 委員 B 思いが伝わった気がする。

(3) その他

- 会 長 それでは、その他について説明をお願いします。
- 事務局 「おはなしぼうけんたいコロボン」チラシ、「第 41 期文章講座受講生募集」チラシ、「飯

田市立中央図書館開館 110 周年盛り上げ隊 （仮称）図書館カフェ開催」チラシを説明

- ・おはなしぼうけんたいコロポン（3月8日～5月23日）
4月23日～5月12日の「こどもの読書週間」にあわせて、図書館おすすめの本のタイトルが書かれた巻物が出てくる手作り機械「コロポン」により、子供の読書推進を図るもの。
- ・第41期文章講座受講生募集
令和6年度で41期となる文章講座の受講生を5月8日まで募集し、第1回講座を5月19日に開催。
- ・飯田市立中央図書館開館 110 周年盛り上げ隊 （仮称）図書館カフェ開催（4月21日）
中央図書館が令和7（2025）年に開館 110 周年を迎えるにあたって、その節目に図書館でやってみたいことを市民の皆さんと一緒に話し合う会を開催。

- 委員 I これまでであれば、文章講座の受講が終わる際に同窓会の案内をしていたが、図書館と協力して、現在の講座受講者の方の文章も同窓会文集『くらしの中から』に載せることで、受講者と文章講座同窓会とのつながりを持たせるようにした。また、文集への掲載者が増えると、作成費用の単価を下げることもなるため、今後も文章講座受講者と同窓会のつながりを大事にしていきたい。
- 文章講座同窓会で開催した講演会には 35 名以上の参加があり、会場に入りきらないほどの盛況であった。また、文章講座同窓会は男性が少ないため、女性に会を盛り上げていていただきたいと思っている。書くためには読むことが必要になるため、同窓会の活動が盛んになれば、図書館の利用も伸びるのではないかと思う。
- 委員 H 公民館の事業を分館と一緒にできるため、ありがたい。クリスマス会やおやす作りなどの行事の際に読みきかせなどを分館で行ってくれて、協力し合える関係ができている。
- 会 長 そうしたことは公民館から図書館へ話をもっていくのか。
- 委員 H これまでも一緒に事業を行ってきた経過もあり、公民館から事業に合わせて協力を依頼することもある。夏祭りに図書館のブースを出してもらうように依頼したり、図書館古本市も公民館の行事の際に出してもらったりしている。
- 事務局 分館は地域の図書館ということで、他の分館も地区の文化祭で古本市を行うなど、地区の一機関として地区の皆さんと連携して事業を行い、分館を知ってもらったり、図書館が地域のことを知ったりしている。
- 事務局 公民館主事が分館主事も兼ねているため、情報共有がスムーズにできて、協力関係も築けている。
- 会 長 県図書館と県公民館が一緒に行っている「県ナゾとき探偵団」の取り組みもよい。
- 事務局 「県ナゾとき探偵団」は県図書館から働きかけて始まったものであるが、地域での現地調査のコーディネートは公民館主事が担ってくれており、図書館だけではできないことができている良さがある。

○会 長 よろしいでしょうか。図書館に協力できることは協力していきたいと、皆さん思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、これで協議を閉じます。